

ランドレースの飼い方(その2)

多田昌男

4、ランドレースの特長

(1) 体 型

ランドレース種豚は白色で、ベーコンタイプ（加工型）、ポークタイプ（生肉型）いずれにも優れた体型を持ち、前・中・後体の釣合がよく、特に同延びが優れており、均整のとれた肢蹄を持ち、頭部は小さく、しかも軽くて適度に長く、鼻はまっすぐで頬は軽く、よく緊っている。耳の大きさは適度で前方に傾斜し、顔面をおおっている。

肩は軽くてよく緊り、体上線は真直ぐか、やや弓状を呈し、背腰部はよく伸び、後軀への移行がよく、肋はよく開張し、下臍部は深く充実している。尻は広く、長く豊円で、腿は厚く、広く、深く、飛節まで充実し、尾は高く附着し、乳器は形質良好で、正常な

乳器を12個以上あり、その配列が良好である。

皮膚は滑らかで皺がなく、白色で毛は質がよく、肢蹄は適度な長さで、正しく立ち、股間が広い。一般体型としては、若雌豚は洋梨型、雄豚はソーセージ型を呈している。

現在わが国に輸入されている各国別のランドレースについて、その能力を比較すると「第2表」のとおりで、従来から飼育されている中ヨークシャー種より優れている点が見える。

(2) 繁殖、育成率

母豚1頭から生まれる子豚の数は平均10~12頭で、現在わが国で飼育されている中ヨークシャー種の約10頭よりやや多いようである。37年度中に酪試、和試で分娩したものを総合すると、その成績は「第3表」のように初産では1腹平均9.36頭、死産1.04頭、合計10.4頭で、初産、2産の平均では、生産9.30頭、死産0.91頭、合計10.21頭となって

いるが、1腹最多のもので15頭である。

1腹平均離乳頭数は8頭で、生産頭数に対する育成率は85.8%である。又子豚の生時体重は各国とも1.3~1.5kgで、中ヨークシャー種1.1~1.3kgに比べて、はるかに大きい。

母豚の泌乳能力は1日平均約7~12kgで、生後8週令の体重は17~20kgと発育がよく、中ヨークシャー60日令14~17kgに比較して成長率が高い。

(3) 発育速度

体重90kgに達するまでの生後日令は、不断給餌では平均153日（アメリカ）、制限給餌では170~180日で中ヨークシャーの214日に比較して相当の差が認められる。体重20kgから90kgに達するまでの1日平均増体重は613~705gで、中ヨークシャーの400~534gよりはるかに多い。

第2表 ランドレースおよび中ヨークシャー種の能力比較

(松崎格氏ランドレースの飼い方から)

区 分	単 位	ランドレース種				中ヨーク シャー種 日 本
		スウェー デン	イギリス	アメリカ	デンマーク	
平均産子数	頭	11.6	9.92	12.8	11.7	9.8
育成頭数	頭	9.5	8.17	10.9	9.4	8.3
生時体重	kg	1.47	1.3~1.5	1.3~1.5	1.3~1.5	1.1~1.3
8週令体重	kg	17.3	17.05	20.34	15.0~	60日令 14.0~17.0
と殺時日令	日	170.5	174.0	153.3	180.0	214.0
と殺時体重	kg	89.9	92.0	92.0	90.0	90.0
1日当り増体重	g	705	—	—	680	534
飼料要求率		3.02	3.45	3.01	3.01	3.70
背部脂肪の厚さ	cm	2.15	2.0	—	—	2.43
背3部位平均脂肪厚	cm	3.01	2.9	3.2	3.21	3.40
と体長	cm	95.3	—	—	94.1	92.7
背 腰 長	cm	—	81.1	78.5	—	78.0
産肉調査年次	年	1959~1960	1959	1959~1960	1956	1960~1961
成豚体重	kg	240~330	—	240~330	—	200~250

注 1. スウェーデン、イギリス、デンマークは制限給餌、アメリカは不断給餌である。
2. 中ヨークシャーは制限給餌、また産肉関係数値は農林省豚産肉能力検定所の成績である。

第3表 繁殖育成率（岡山県37年度）

区分	母豚 数	分娩頭数			同腹平均頭数			死産頭数			畜乳頭数			一腹平均 離乳頭数			育成率 %
		♂	♀	計	♂	♀	計	♂	♀	計	♂	♀	計	♂	♀	計	
初産	25	131	103	234	5.24	4.12	9.36	20	6	26	110	93	203	4.40	3.72	8.12	86.7
2産	21	99	95	194	4.71	4.52	9.23	9	7	16	84	80	164	4.00	2.81	7.81	84.5
計	46	230	198	428	5.00	4.30	9.30	29	13	42	194	173	367	4.22	3.76	7.98	85.8

(4) 飼料の利用性と肉質

飼料の利用性は極めて旺盛で、配合飼料70~75%に対し、草類の利用が非常に多い。体重90kgに達した場合、と体の肩、背、腰の脂肪平均

岡山畜産便り 1963.10

厚は2.9~3.2 cmで、中ヨークシャーの3.4 cm以上に比べてうすく、加工、生肉両面に優れている。また、と体長は平均 95 cm (スウェーデン最長 98.6、最短 93.1 cm) で、中ヨークシャーに比較してはるかに長い。

と肉留りは72~75%で、中ヨークシャーに比べて全体的に大差ないが、精肉の歩留りが高い。肉質については早熟性のためか、赤肉の色がやや淡く、大味であるという人もある。

(5) 成豚の体重

ランドレースの成豚体重は240~330kgで、中ヨークシャーの200~250kgよりはるかに大きく、胴延びがよい。

5、ランドレースの審査標準

36年度以来、本格的にランドレースが輸入され、この豚の審査標準もおのずから必要となり、英国、オランダ、アメリカ等の審査標準に準拠して、これらを比較検討の上、ランドレースの理想と考えられる体型を想定して、去る38年4月1日「第4表」のとおり作定された。

また、審査項目、説明事項、評点等もヨークシャー、パークシャー種豚審査標準と関係なく定めることは、審査に当って、混乱を招くおそれもあるので、とくに異なる点は、別として、なるべく関連をもたせる方針で定められている。

従って審査項目は同一として、評点も肢蹄と被毛皮膚の項が異なるだけである。

次にこの審査標準の解説は主として、ランドレースの特質について述べることとし、ヨークシャーと同様な点については、重複を避けることにしたので、ヨークシャーについての解説も併せて参照願いたい。

また採点の方法、減率基準、その他については、勿論ヨークシャー、パークシャーの場合と全く同様である。

◎ランドレース種豚審査標準解説

頭 部

頭部は軽いことは肉用家畜である豚として好ましいことであり、ランドレースが改良の進んでいることを示す大きな特徴の1つでもある。顔の長さは、

体軀の伸びと関係があるので、体軀の伸びのよいことを特徴とする。

ランドレースとしては、短いものより長いものがよい。しかし長過ぎるものや粗大なものは骨量が多く、品位にも欠けるので好ましくない。

鼻がまっすぐであるということは、眼の部分から鼻端までのしゃくれがなく、ほぼまっすぐであるということであって、額から鼻端までがまっすぐということではない。

また前方からみたとき、鼻が左右に曲がっていないことも意味している。鼻端は、ヨークシャーのような広さはないが、あまり狭いものは好ましくない。顎は、ヨークシャー等より張りの少ないのが普通であり、従って顔の幅もあまり広くない。また、ランドレースでは、いわゆる喰違いや受け口のものは少ないようである。

頬に余分な脂肪がなく、軽くてよく緊っていることは、頭部の軽い原因の1つであってこれもランドレースの優れた特徴である。従って頬にゆるみを見せるようなものは、体全体の緊りにも欠けるものとみてよからう。眼は一般に細いものが多い。また普通は耳でおおわれているので眼の状態はみにくい、性質や健康状態をあらわすものであるから、よく観察すべきである。

耳の大きさは、個体によってかなり差違がみられるが、耳の小さいものは一般に体型のつまったものに多い傾向がある。また鼻端より先に出る程大きいものは適当でない。

第4表 ランドレース種豚審査標準

項 目	説 明	評点
頭 部	軽くて、適度に長く、鼻はまっすぐに鼻端は狭くなく、顎は正しく頬はよく緊り、眼は温和でいきいきとし、耳は大きき適度で前方に傾斜し顔面をおおい、両耳の間隔が適度なもの	9
頭 部	長さ適度で軽く、緊りがあり、頭部と前軀へ滑らかに移行するもの	3
前 軀	肩は軽くてよく緊り、傾斜適度で、前肢と中軀への移行がよく、胸は広き深き適度で緊りのあるもの	12
中 軀	背腰部はよく伸び、幅広く、まっすぐで、後軀への移行がよく、肋はよく開張し、腹部は豊かで緊りがあり、下腰部は深く充実しているもの	20
後 軀	尻は広く、長く、豊門で、腿は厚く、広く、深く、飛節まで充実し、尾は高く附着し、長さ太き適度なもの	20
乳器生殖器	乳器は形質良好で、正常な乳頭が12個以上あり、その配列の正しいもの、生殖器は発育が正常で形質のよいもの	6
肢 蹄	四肢は長さ適度で正しく立ち、肢間は広く、管は太すぎず、形良好で強く、緊りなるべく短かく弾力があり、蹄は形質良好で歩様のよいもの	9
被毛皮膚	色は白く、毛は質がよく、光沢があり、皮膚は滑らかで皺がなく、れるべく斑点のないもの	4
品位性質	品位に富み、性質は温順で、活気があり、よく性相を現わすもの	5
一般体型	発育良好で、頭頸部は軽く、体に伸びがあり、後軀はよく発達し各部の釣合がよく、体上線はやや弓状に見え、体下線はほぼ平直で、体積豊かで緊りのあるもの	12

岡山畜産便り 1963.10

一般に大きさの目安としては、顔を7～8分のおおう程度の大きさが適度と解してよいが、顔の長短によっても違いがあるので、この点も充分考慮して、判断することが必要である。

耳の傾斜については、顔に平行して基部から前方に傾斜し、顔面もおおうことが好ましい。前方から見たとき左右に開き過ぎるものや反対に先端が重なり合うもの、耳の立ち気味なもの等はあまり好ましくない。

両耳の間隔はあまり狭過ぎるものは適当でない。耳間の狭過ぎるものは耳の先端が重なり合う傾向がある。

頸 部

頸の長さは体の長さに釣合うべきものであり、ヨークシャーよりは多少長めのものが普通である。

頸が軽く、緊りのあることもランドレースの特徴の1つであり、頸が厚く重いものや顎から胸に至る下線のゆるいものは好ましくない。しかし頸の薄過ぎるものは、繊細であり肩への移行が悪く、また肩幅との釣合いもよくないので適当ではない。

前 軀

肩が軽くてよく緊っていることも、ランドレースの大きな特徴の1つである。成熟した雄豚は別として、前幅は通常後幅より狭いものが多く、これはヨークシャー等と異なる点である。

しかし、肩幅が狭過ぎるものや反対に肩が重厚で張るもの、肩つきのゆるいもの等は、ともに好ましくない。

ランドレースでは一般に肩の傾斜も概ね適度で極端に不良なものは少ないが、まれには肩が前つきで、釣合のよくないものもある。

前肢への移行は、肩が軽いので欠点のあるものは少ないが、肩後の落ちたものや、胸幅が狭いために中軀への移行の悪いものがあるので注意する必要がある。

胸は広さ深さ適度で緊まっていることが好ましい。ただし、胸に適度の広さと深さがあっても、後体が深く充実しているので、全体の形としては、胸が浅いように見える場合もあるので注意すべきである。

中 軀

背腰部の伸びが極めてよいことは、ランドレース

の大きな特徴の1つであって、中軀の項でこの点が最初に説明されているのも、その重要性を示すものである。

従ってランドレースで背腰部のつまったものは特に好ましくない。背幅の広いことは背腰部の発育のよいことを意味し、望ましいことである。背腰部が極端に狭く屋根形をしているものはロースが細く、肋の張りも悪いので適当でない。

ランドレースは中軀の伸びがよく、背脂肪の薄いのが特徴であるから外観上背幅が不足するようにみえがちである。

次に背線はまっすぐで、後軀へ滑らかに移行するものが好ましい。肩後や腰の部分にくぼみが出来、背線がでこぼこした感じを与えるものや背が盛り上がって全体に体をまるめるような姿勢のものはよくない。

後軀への移行は、中軀の充実の度合と、後体の状態によっても左右される。即ち、ランドレースは後軀の幅が広く、充実したものが多く、特に側面において中軀から後軀へ移る部分に段をなすものがある。

肋の張り具合は中軀の幅と同様な意味をもつので、よく開張していることが望ましい。ランドレースでは中軀の伸びが良好なために、一見肋張りの貧弱な印象を受ける場合もあるので注意を要する。

腹部はベーコンタイプの豚として重要な部分であるとともに種豚としても充実していることが、必要である。ランドレースは一般に下臍部が充実し、腹部の脂肪も概して緊っているものが多い。

後 軀

ランドレースの後軀は、尻の幅が特に広く、充実していて、豊円という言葉がぴったりあてはまるのが理想である。また腿も厚く特に内腿が充実していることも特徴の1つである。

ランドレースの尻は、比較的傾斜するものが少ないが、肢が弱いために前踏みとなり全体に尻が下がるものもあるので注意する必要がある。

尾付きは、一般に高いのが普通であるが、尾は概して細く、ヨークシャーのように房々とした尾房のものは少ない。

岡山畜産便り 1963.10

乳器、生殖器

乳器、生殖器の説明事項はヨークシャーの場合とまったく同じであり、審査も同様な観点に立って行なえばよい。

しかしランドレースには比較的乳頭数の多いものがあるが、乳頭の間隔が良好であればよい。

肢 蹄

ランドレースの肢蹄は、ヨークシャーに比べて、一般に弱い傾向がある。従って、評点においてヨークシャーの8点に対し9点を与え、今後改良する必要のあることが示されている。

ランドレースは四肢がやや長く、繋も長いために、特に後肢の折込みが深くなりがちである。また肘節や飛節が弱くて、外方に曲がることが多いので、これらの点に特に注意する必要がある。

肢間の広さは、胸または腿の付け根における広さばかりでなく蹄部における広さを示すものである。

ランドレースの後肢は、一般に後軀の発達がよいので、上部においては肢間が広いが、下部になるに従って狭くなるものがあるから注意する必要がある。

歩様についてはランドレースは前述のような原因や中体の伸びが良好なこと、尻幅の広さに比例して肢間が広いこと等のために腰がふれ、歩様がよくないものもあるので注意する必要がある。

被毛、皮膚

ランドレースの被毛は、一般に繊細で著しくちぢれているものや極度に波状を呈するもの、剛毛のあるもの等は少なく、皮膚も比較的薄く滑らかである。

従って評点もヨークシャーの5点に対し4点となっている、被毛、逆毛、斑点等についてはヨークシャーと同様な見解で審査すればよい。

品位、性質

性質は一般に温順なものが多く、雄においても比較的粗暴なものは少ない。

一般体型

発育の良好なことは、ランドレースの優れた点であるから審査に当って注意する必要がある。

頭頸部が軽くて体に伸びがあり後体がよく発達していることはランドレースとしての好ましい体型を示したものであり、大きな特徴でもあるから、このようなタイプを頭に画いて審査することが大切である。

る。

従って頭頸部が重くてゆるいもの、前体の重すぎるもの、中体の伸びの乏しいもの後体の貧弱なもの等はランドレースのタイプとして特に好ましくない。

またランドレースは一般に体全体に過度の脂肪があるものは少ないが、体の緊りに欠けるものがあるので注意を要する。

以上がランドレース審査標準の解説であるが、37年12月末までに日本種豚登録協会で登録済のランドレース平均測尺数値は「第5表」のとおりである。

第5表 ランドレース種豚の平均測尺数値

(日本種豚登録協会)
(37年12月末現在)

区 分	性	8 ヵ月	9	10	11	12
体 重	♂	137.0	144.4	169.0	175.0	189.0
	♀	135.0	146.1	163.0	179.2	181.0
体 長	♂	133.5	139.4	148.0	149.0	152.8
	♀	133.2	135.5	140.2	143.6	145.5
胸 囲	♂	107.2	111.4	118.0	123.5	121.0
	♀	108.0	109.3	118.0	121.2	121.9